

土地の歴史的景観を伝えるレンガ門

伝えたい千葉の産業技術 100 選

| | |
|---------|----------------------|
| 登録番号 | 第040号 |
| 名称(型式等) | 千葉工業大学通用門(旧鉄道第二連隊表門) |
| 所在地 | 習志野市津田沼 2-17-1 |
| | 学校法人千葉工業大学 |
| 設立(竣工)年 | 明治 41(1908)年頃 |

選定理由

千葉工業大学の通用門は、旧陸軍の鉄道第二連隊の兵舎の表門として使われていたものです。軍部は明治 20(1887)年頃から、迅速で大量に物資の運搬ができる鉄道輸送による部隊や武器の移動の重要性を訴えるようになり、「日清戦争」の翌年の明治 29(1896)年に鉄道の敷設・補修・運転などを主な業務とする鉄道大隊が創設されました。鉄道大隊は、その後の明治 37~38(1904~05)年の「日露戦争」にも貢献し、明治 40(1907)年、鉄道連隊に昇格、翌年に東京中野から千葉県に移転し、本部・材料^{しょう}廠などが千葉町(現千葉市中央区椿森)に、また、鉄道連隊第三大隊が津田沼に置かれました。その後、シベリア出兵に伴う増強のため、鉄道連隊第三大隊は大正 7(1918)年、鉄道第二連隊に昇格しました。

千葉工業大学通用門(旧鉄道第二連隊表門)は、この地に移転した明治 41(1908)年頃に、津田沼駅南側の兵営入口に連隊の表門(正門)として造営されたといわれ、また、当初この門は現在の駅前バスターミナル付近に設置されましたが、大正 10(1921)年頃に現在地に移転したようです。門柱はレンガ造りで、外側の 2 基が高さ 2.2m・21 段、内側の 2 基が高さ 2.9m・32 段、門柱 4 基からなる幅は 10.6m です。平成 10(1998)年には、国の登録有形文化財(建造物)に登録されています。



写真 1 : 旧鉄道第二連隊表門



写真 2 : 登録プレート

参考資料 : 千葉工業大学通用門(旧鉄道第二連隊表門) 習志野市ホームページ